

【中学校・特別活動】

平成 30 年度の重点

1 指導計画及び評価計画の工夫・改善

- 各学校の創意工夫を生かすとともに、各学級や各学校の実態や生徒の発達の段階を考慮し、生徒による自主的、実践的な活動が助長されるように努める。
- 各教科、道徳科及び総合的な学習の時間などの指導との関連を図るとともに、家庭や地域の人々との連携、社会福祉施設等の活用などの工夫に努める。
- 生徒会活動及び学校行事については、それぞれの内容に応じ、年間、学期ごと、月ごとに、適切な授業時数を充てるように努める。
- 調和のとれた全体計画と各活動・学校行事の年間指導計画を全教師の協力の下で作成するとともに、その工夫・改善に努める。
- 自己決定の場の設定や自己有用感の育成、共感的な人間関係の構築といった生徒指導の機能を十分に生かした指導計画の作成に努める。
- 各内容の特質を踏まえた評価規準及び評価計画の作成に努める。

2 指導方法及び評価方法の工夫・改善

- すべての活動を通して、望ましい人間関係の育成を図るよう努める。
- 学級活動では、集団の一員として学級や学校におけるよりよい生活づくりに参画し、諸問題を解決しようとする自主的、実践的な態度や健全な生活態度を育てるよう努める。
- 生徒会活動では、集団や社会の一員としてよりよい学校生活づくりに参画し、協力して諸問題を解決しようとする自主的、実践的な態度を育てるよう努める。
- 学校行事では、集団への所属感や連帯感を深め、公共の精神を養い、協力してよりよい学校生活を築こうとする自主的、実践的な態度を育てるよう努める。
- 学校生活への適応や人間関係の形成、進路の選択などの指導に当たっては、ガイダンスの機能を充実するよう、学級活動等の指導を工夫し、特に入学当初においては、個々の生徒が学校生活に適応するとともに、希望と目標をもって生活できるよう努める。
- 生徒一人ひとりのよさや可能性を多面的・総合的に評価するための方法等について、工夫・改善を図るよう努める。
- 小・中学校の連携を重視し、発達の段階を考慮した指導の継続性を図るよう努める。

3 指導における留意点

- 体験活動を通して気付いたことなどを振り返り、まとめたり、発表し合ったりするなどの言語活動の充実を図るよう努める。
- 特別活動の「望ましい集団活動による生徒の自主的、実践的な活動」の特質を生かし、道徳的実践の指導の充実を図るよう努める。

参考

◆ 県教育委員会ホームページ

- 評価資料集Ⅳ－評価活動の参考資料として－中学校

<http://www.pref.kanagawa.jp/uploaded/attachment/606564.pdf>

- 教育課程編成の指針（幼稚園、小学校、中学校）中学校特別活動（平成 30 年作成）

<http://www.pref.kanagawa.jp/docs/v3p/kyouikukateisisinn.html>

◆ 文部科学省ホームページ

- 移行措置関連資料

http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/1387780.htm